

森林整備革新的取組支援事業 成果報告

平成18年度から平成22年度の取組成果をご紹介します。

森林整備革新的取組支援事業の5年間の取り組み

将来を見据えた新たな育林・施業体系の構築を目指して

久万林業の活性化に向けて

当地域では、森林施業の集約化を通じた林業の活性化を全国に先駆けて取り組んでおり、本事業を活用して次の方法を模索して参りました。

① 集約化された山林をより低コストで、効率的に整備する方法

② 持続的に林業を営むために木材の販売利益によって再造林する方法

H19 放置林分の緊急対策

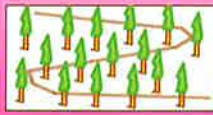
作業路に沿った帯状伐採更新



不採算放置林分の緊急改良対策として帯状伐採更新を提案

H18 基本となる間伐方式

高性能林業機械の導入



高密度路網の開設

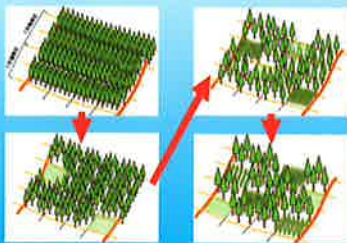
定性間伐が基本

劣勢木・暴れ木を間伐木とし、残存木の経済価値向上を基本とする

高性能林業機械と高密度路網を導入し、団地施業における基本的な施業システムとして普及

H20 基本となる更新方式

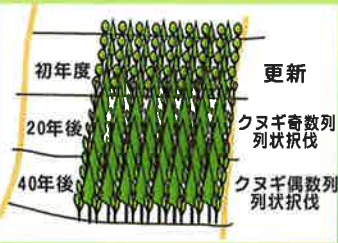
「定性間伐」+「群状択伐」



基本となる再造林手法として定性間伐と群状択伐の併用システムを実証

H21 更新オプション

針広混交更新

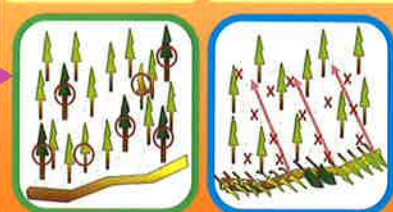


平成20年度の応用として、針葉樹と広葉樹の混交林化を試験的に実施

H22 間伐オプション

成木摘伐方式
販売有利木を伐採

劣勢木密集林分への
部分列状間伐



成熟林分

未整備林分

管理状況に応じた間伐施業の在り方として、成熟林における販売に有利な立木を伐採する成木摘伐方式と、未整備林における部分的な列状間伐による効率化の可能性について検証

山林を所有する皆様の多様なご要望にお応えするための「提案力」を高めて、これからの久万林業を活性化して参ります。

提案力のさらなる追求



平成22年度
革新的施業技術取組事例発表会にて
～2011年1月26日(東京)～

取組の成果を
全国に発信!

